

LIFE STORY NOTE



社会を救うのは
地域の居場所だ！



CASE 03

高齢者の人たちが気兼ねなく立ち寄れる
居場所づくりを通してこれからの福祉を考える

「福祉の仕事をする上で大切なのは、会いに行くこと」。
就職に向けて、実習をする中で教わったこの言葉は
ゼミのフィールドワークを体験していたことで
身をもって分かったこと。
教科書を読むだけでは知ることができない、
体験したからこそ学びを
フィールドワークを通して得ることができました。



Dairi Nakama

仲間 大地

福祉文化学科
社会福祉専攻 3年次
沖縄水産高校出身

DISCOVERY!

地域社会に貢献したい思いがアップした！

僕は玉木ゼミに入っていますが、フィールドワークで「地域のみんなで創る健康長寿サロン ゆんたくばあめぐみ」に行き、高齢者の方々と実際にゆんたくしてきました！その時は自分たちでお菓子を袋に詰めて、一つ一つにメッセージを書いて持って行きました。喜んでもらえてとても嬉しかったです。

サロンでは「こっちでお茶だけでも飲んでいったらいいさ〜」という言葉が印象的でした。実際、「病院の待ち時間だから」「さんぼの途中だから」など、本当にふらっと立ち寄り場所になっていることが印象的でした。自分の祖母が住んでいる地域でもこうしたことが多く、以前は見知らぬ人が入ってきて、水道の水をペットボトルに入れて帰って行ったということもありました。このマインドは沖縄の人々の魅力だと感じています。

社会福祉の講義を受講していると、どの講義でも「地域」という言葉がキーワードになっています。いまの社会では孤立や孤独の問題が多いと感じています。その中で、人と人や地域、社会とつながることができる地域の居場所がある大切さを、フィールドワークで学びました。僕自身、活動前はサロン



のような場所があること自体を知らなかったし、もちろん訪問したこともなかったのですが、とてもいい経験になりました。こういう場所があることを知るだけで、自分がその情報を発信することもできるし、一人一人がそうした姿勢であれば、縁がいっぱいある社会になるのではと思っています。

今回、サロンを訪問した活動から、「ゆんたくばあめぐみに来てくれる方々の歩んできた人生を聞き取って、まとめた本を作ろう！」という計画が進んでいます。大先

輩方からのお話を聞いて、自分の今後についても考えて、吸収できることは吸収していきたいと思っています。

福祉を学び、高齢者に関わる仕事がしたいと考えている自分にとって、ゼミで行うフィールドワークはとてもいい学びの場になっています。教科書では知ることができなかったことを体験することで学ぶことができます。「百聞は一見に如かず」。幼い頃から持っているこのマインドは、今後も福祉に携わる上で大切にしていきたいです。



沖大近くにある高齢者サロン「ゆんたくばあめぐみ」を訪問して、利用している方々と実際にゆんたく。サロンでは、利用者の方々の趣味や得意なことを活かして他の利用者と一緒に楽しむようにしていたことが印象的。地域の中で高齢者をはじめとするさまざまな人たちの居場所をどのように作れるかについても調査・研究を実施。

沖縄大学の周りには学びの場が
たくさんありました！

FIELD WORK